

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.37	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.9</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40	
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40	
1 開口部遮音性能		3.0	0.42	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.45	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.06	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.06	3.0	0.20	
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20	
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1 室温		3.0	0.45	3.0	0.57	
2 外皮性能		3.0	0.30	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.25	-	-	
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
3.1 昼光利用		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光制御		3.0	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>		<b>2.6</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.6</b>
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.38	
1 換気量		3.0	0.40	3.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	0.20	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.40	3.0	0.33	
4.3 運用管理		<b>1.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		1.0	0.30	-	-	
2 喫煙の制御		1.0	0.70	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.5</b>	0.40	<b>4.2</b>	1.00	<b>3.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.9</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性	1床室15.3㎡≥10㎡、4床室8.5㎡/床≥8㎡/床	3.0	0.10	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化基準を満たす	4.0	0.90	-	-	
1.2 心理性・快適性		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観		3.0	0.25	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.09	-	-	
3 内装計画		3.0	0.66	3.0	0.50	
1.3 維持管理		<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	内装、外装共に清掃性、防汚性に配慮しています。	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		<b>3.2</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	病院の給湯用に使用するために、ガスを燃料としてマイクロコージェネレーションシステムを導入し、熱源種分散化などを採用している。	4.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.3</b>
3.1 空間のゆとり			<b>4.2</b>	0.30	<b>3.6</b>	0.50	
1	階高のゆとり	1~3階(学校)は階高4.0m以上、4~7階(病院)は階高3.7m以上-3.9m未満以上確保	5.0	0.60	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
3.3 設備の更新性			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.33	-	-	<b>3.7</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮		周辺建物と合わせた色彩計画	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	広場やピロティを設けてアメニティに貢献。	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	ピロティ・庇を設けることで、都市空間の活動に寄与した。	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>2.8</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.8</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.76	<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.88、LED照明設備を採用	<b>2.6</b>	0.50	-	-	<b>2.6</b>
4 効率的運用			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
1 水資源保護			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		自動水栓に加えて節水型便器を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>2.9</b>	0.60	-	-	<b>2.9</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>2.6</b>	0.20	-	-	<b>2.6</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>2.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率91%	<b>3.3</b>	0.33	-	-	<b>3.3</b>
2 地域環境への配慮			<b>2.5</b>	0.33	-	-	<b>2.5</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場及び駐車場を確保し、管理運用車両のスペースを確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	